

Title of Invention: Liquid Container

Publication Number: Japanese Utility Model Publication Sho46
No.36225

Publication Date: 13 December 1971 Priority Country: Japan

Application Number: Japanese Utility Model Application Sho43
No.30958

Application Date: 9 February 1966

Applicant: Zenzo HOMMA

Number of Other Applicants: 0

Inventor: Zenzo HOMMA

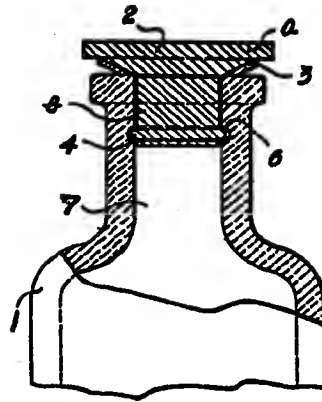
Number of Other Inventors: 0

Int. Cl.: B65d

Configuration:

As illustrated in Fig.1, a container 1 is made of a soft synthetic resin material or the like which is formed in a bottle-shape by pressing or injection molding. As shown in Fig.1, upper end of the container 1 has an opening 8 for pouring liquid with a funnel body 3 integrally disposed thereof. A recessed groove 6 is annularly formed on inner surface of the opening 8. A cap body 2 is also made of a soft synthetic resin material or the like which integrally comprises a cap member "a" on the top portion and a stopper member "b" on the bottom portion. Undersurface of the cap member "a" is formed in a tapered shape so as to tightly fit into inner surface of the funnel body 3 while pressing top end of the container 1. The stopper member "b", meanwhile, is provided with an annular projection 4 which removably fits into the above-mentioned recessed groove 6 which is formed in the opening 8 of the container 1. The funnel body 3 is tapered outwards and upwards as it projects out the opening 8 of the container 1. In this configuration, the cap member "a" of the cap body 2 tightly fits into the funnel body 3 of the container 1, so that the liquid inside the container 1 should not leak out. Meanwhile the liquid can easily be poured out as the annular projection 4 on the stopper member "b" is released from the recessed groove 6 on the inner surface of the opening 8 by simply pulling the cap body 2 away from the container 1.

Fig.1



⑤Int.Cl.
B 65 d

⑥日本分類
133 A 330.2

日本国特許庁

⑩実用新案出願公告

昭46-36225

⑩実用新案公報

④公告 昭和46年(1971) 12月13日

(全2頁)

1

⑤液体容器

②実 願 昭43-30958
②出 願 昭41(1966)2月9日
②実 願 昭41-10539の分割
⑦考 案 者 出願人に同じ
⑦出 願 人 本間善象
横浜市港北区新羽町1188
代 理 人 弁理士 早川潔 外2名

図面の簡単な説明

第1図は本案液体容器の一部縦断正面図、第2図は平面図で一部切欠する。第3図は栓体を外した状態を示す縦断正面図、第4図はX-X線に沿える横断平面図である。

考案の詳細な説明

本考案は柔軟合成樹脂製容器に漏斗体を同一体に突設すると共に流出孔の内側周には掛合凹溝を刻設形成し、且蓋体の下側周縁に掛合凸条を突設して、該栓体を容器の漏斗体の内周面に圧接せしめると共に容器の流出孔に着脱自在に嵌合掛止するようにした液体用容器である。

容器1は柔軟性を有する合成樹脂等で瓶状に圧搾又は射出成形し、その容器1の流出孔8上端には漏斗体3を一体的に突設し、流出孔8の内周面には掛合凹溝4を環状に凹設する。蓋体2は柔軟質合成樹脂で上部に蓋部aを下部に栓部bを連続して一体的に形成し、蓋部aは容器1の上面部を押圧すると共に漏斗体3の内周面に沿つて嵌合密接するように下面をテーパ状に傾斜成型する。栓部bはその周縁下側に掛合凸条を環状に突設し容器1の流出孔8に設けた掛合凹溝6に着脱自在になるように嵌合係止する。漏斗体3は容器1の流出孔8上面より上方に至るに従つて外側方にラッパ状に拡開するように成型突設し、その内周面に沿つて蓋体2の蓋部aが嵌合するようになし、容器1内の液体が漏斗体3より外部に漏出しなくようにする。

従つて蓋体2の蓋部aを漏斗体3の内周面より

2

離反させ、且栓部bの掛合凸条4を容器1の掛合凹溝6から外ずせば容器1の流出孔8は開通され容器1内の液体は流出孔8を通つて漏斗体3に流出され、漏斗体3を通して液体は連続細条状に流出される。

漏斗体3は蓋体2を容器1の流出孔8に押し込み嵌挿せしめると、蓋体2の上部に設けた蓋部aの嵌合押圧によつて扁平となり、蓋部aに密接し容器1からの液体の流出を防止する。掛合凸条4は蓋体2の栓部bの下側周縁に環状に刻設し、その凸条4は容器1の流出孔8の内側壁に沿つて下押され、流出孔8に設けた掛合凹溝6に嵌合係止する。

而して、掛合凸条4は流出孔8の内径よりも少し大径であるため、蓋体2を流出孔8内に嵌合挿入した時、該掛合凸条4は流出孔8の内側壁を外側方に押し広げながら下降して、流出孔8の内側壁或いは漏斗体3の内周面に附着せる液滴を容器1内に押し流し収容せしめる。そして蓋体2を外ずし容器1の流出孔8を開口したる時、液体は漏斗体3より連続細条状に流出する。

本考案は以上の様に柔軟合成樹脂製容器に漏斗体を同一体に突設すると共に流出孔の内側周には掛合凹溝を刻設形成し、且蓋体の下側周縁に掛合凸条を突設したので、容器内に収容せる液体は流出孔を通つて漏斗体に至り、その漏斗体より液体を細条に流出し得て、液体を外部に飛散させる事なく衛生的に排出使用し得る。

又、蓋体には前記漏斗体の内周面と密接する蓋部及び流出孔の内側周縁に凹設せる掛合凹溝と嵌合係止する掛合凸条を環状に突設したので、該蓋体を流出孔に押圧嵌入する事により、漏斗体の内周面或いは流出孔内壁に附着残留せる液滴は、蓋体の掛合凸条により下方に押し流され、容器内に落下収容される。従つて漏斗体の内周面及び流出孔の内壁に排出時の液体は附着残留せず、漏斗体及び流出孔等を常に清潔に保持し得て極めて衛生的であると共に液体を無駄にする事なく使用し得る。

(2)

(2)

実公 昭 4 6 - 3 6 2 2 5

3

4

更に蓋体は掛合凸条により容体の流出孔に嵌合係止せるため、容体を倒状しても蓋体を取り外れるといった事はなく、しかも掛合凸条と掛合凹溝の掛合により、容体内の液体は漏出せず、確実に收容保持し得る。

実用新案登録請求の範囲

柔軟合成樹脂製容体に漏斗体を同一体に突設すると共に流出孔の内側周には掛合凹溝を刻設形成

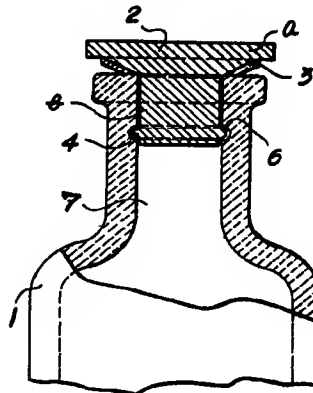
し、且つ蓋体の下側周縁に、掛合凸条を突設して該蓋体を容体の漏斗体の内周面に圧接せしめると共に容体の流出孔に着脱自在に嵌合係止するようにした液体用容器。

5

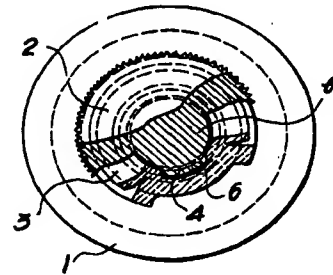
引用文献

実 公 昭 4 4 - 3 1 5 1 3

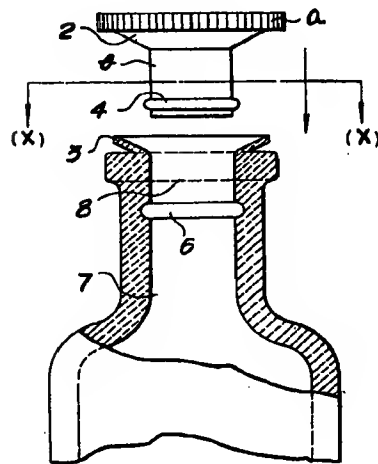
第1図



第2図



第3図



第4図

